

学習・教育目標	<p>建築学コースでは、ディプロマポリシーとなる以下の9つの学習・教育目標を定めています。</p> <p>(A) 科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける                  (B) 多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身に付ける                  (C) 人間と社会に関する教養を身に付ける                  (D) 建築技術者としての倫理観を養う                  (E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身につける                  (F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける                  (G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築として実現する能力を身に付ける                  (H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける                  (I) 工学と芸術のバランスのとれた感性を磨く</p>
---------	--

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連								
				ディプロマポリシーの項目記号 達成目標(ディプロマポリシー)の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0の数値で表す								
				A	B	C	D	E	F	G	H	I
初期導入科目	<p>大学生活を送るうえで必要とされる、自主的かつ自律的な態度および学習の進め方を学ぶことができるように企画された科目である。<b>(必要に応じて学科等ごとに追加)</b></p>	<p>各学習・教育目標を達成する基礎として、新入生を大学における学習全体へと導く役割を担う必修科目である。</p>	<p>・日々の生活や学習における自己管理、時間管理ができるようになる。                  ・大学という場を理解するとともに、学習を進めるうえで必要な知識、技能を身につける。                  ・将来的なキャリア形成を見通しながら自己を認識し、それぞれの専門分野とつながりのある職業について学ぶことで、今後4年間の過ごし方について考え始める。  <i>(必要に応じて学科等ごとに追加)</i></p>	1	0	0	0	0	0	0	0	0
リテラシー科目	スポーツと健康	<p>集団的スポーツと個人的スポーツ(軽スポーツ的な内容を含む)から、学生は、希望の種目を受講する。自己の体力および心身の健康への認識を深め、運動を楽しむ。ストレス発散、技能の向上を図る。チームワークを高め、試合運営について熟知できるようにして、様々な人達と接する機会を増やしながら、グループ間での学び合いなど、社会・対人関係力の形成に努める。また、運動する楽しさや意欲的な学習への動機づけも行う。                  以上のカリキュラムによって、履修した運動種目の知識、技能の基本的な能力の修得を通し心身の健康を維持し、体力向上への意識づけを図るとともに今後発展するコミュニケーション能力、リーダーシップの基礎を養成することを目指す。</p>	<p>生涯にわたる豊かなライフスタイルの形成に向け心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解させる科目である。</p>	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	情報処理基礎	<p>情報化社会で必要不可欠とされる情報および情報手段を主体的に選択し活用していくための基礎的な能力を学び、情報活用の実践力を養い、情報の科学的理解を深める。</p>	<p>すべての学生が共通的に持つべき情報リテラシーの修得を図る目的で企画された必修科目である。</p>	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	とちぎ終章学総論	<p>高齢社会に関する課題を自らの問題として捉え、高齢者と共に生きるため、また、自分自身も豊かな終章を生きるための知識について学ぶ。</p>	<p>幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。</p>	<p>・人間がどのように老いていくのか、その生き方の多様性を理解し、関心を持つ。                  ・高齢社会における生活をめぐる課題について理解し、解決策について考える。                  ・自らのこととして老いや終章について考えることにより、人生を積極的に生きる意欲を喚起する。</p>	0	0	1	0	0	0	0	0
英語	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4skills(speaking, listening, reading, writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4skillsの育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分を行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	<p>地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。</p>	<p>「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身についている。</p>	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	人文科学系科目	<p>哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。</p>	<p>幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。</p>	0	0	1	0	0	0	0	0	0
教養科目	社会科学系科目	<p>ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。</p>	<p>幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。</p>	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	自然科学系科目	<p>自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのため、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。</p>	<p>幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。</p>	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	総合系科目	<p>教室(下宿制)の実施、入学イベントからの講評の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。</p>	<p>幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である。</p>	0	0	1	0	0	0	0	0	0











授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号									
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	
建築構造力学 I	建築物の安全性を検討する構造設計の基本となる構造力学の基礎を学びます。具体的には、静定構造物における力のつり合い、応力の算定、応力度と歪度の関係などを学びます。本講義は建築構造力学演習 I と組み合わせる必要があり。	下記の建築学コース学習教育目標に対応します。(4) 建築技術者としての倫理観を養う。(5) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	静定構造物(片持ち梁, 単純梁, 静定ラーメン, 3ヒンジ架構, 静定トラス)における力のつり合いが理解できること。各部位に生じる応力(曲げモーメント, 軸方向力, せん断力)を算定して応力図および変形の概略が描けること。構造材料の基本的な力学的性質である応力度と歪度の関係を理解し、応用できること。	0	0	0	0.5	0.5	0	0	0	0	0
建築構造力学 II	建築構造力学 I に引き続き構造力学の基礎を学び、構造設計の基本となる静定構造物の応力と応力度の関係、応力と変形の関係について理解を深めます。具体的には、断面図形の性質、断面部材の応力度、座屈、許容応力度設計、変形、仕事と至エネルギーを学びます。本講義は建築構造力学演習 II と組み合わせる必要があり。	下記の建築学コース学習教育目標に対応します。(5) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	・部材断面の諸性質を理解し、関係諸量を算定できる。・曲げモーメントと垂直応力度の関係を理解し、応力度の検討ができる。・せん断力とせん断応力度の関係を理解し、応力度の検討ができる。・長柱の座屈耐力および座屈応力度を算定できる。・部材および構造物の曲げ変形を求めることができる。	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
建築構造力学演習 I	建築構造力学 I に引き続き構造力学の基礎を学び、静定構造物における力のつり合い、応力の算定、応力度と歪度の関係などを学びます。本演習は建築構造力学 I と組み合わせる必要があり。演習では自分の手を動かして実際に問題を解くことで、講義内容を体感的に理解します。	下記の建築学コース学習・教育目標に対応します。(4) 建築技術者としての倫理観を養う。(5) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	静定構造物(片持ち梁, 単純梁, 静定ラーメン, 3ヒンジ架構, 静定トラス)における力のつり合いが理解できること。各部位に生じる応力(曲げモーメント, 軸方向力, せん断力)を算定して、応力図と変形の概略が描けること。構造材料の基本的な力学的性質である応力度と歪度の関係を理解し、応用できること。	0	0	0	0.5	0.5	0	0	0	0	0
建築構造力学演習 II	建築構造力学 I に引き続き構造力学の基礎を学び、構造設計の基本となる静定構造物の応力と応力度の関係、応力と変形の関係について理解を深めます。具体的には、断面図形の性質、断面部材の応力度、座屈、許容応力度設計、変形、仕事と至エネルギーを学びます。本講義は建築構造力学演習 II と組み合わせる必要があり。	下記の建築学コース学習・教育目標に対応します。(5) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	・部材断面の諸性質を理解し、関係諸量を算定できる。・曲げモーメントと垂直応力度の関係を理解し、応力度の検討ができる。・せん断力とせん断応力度の関係を理解し、応力度の検討ができる。・長柱の座屈耐力および座屈応力度を算定できる。・部材および構造物の曲げ変形を求めることができる。	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
構法設計	建築物の構成部品や構成方法について、躯体構法と各部構法に分け、その仕組みや特徴に関して学習する。	建築学コースの学習・教育目標のうち、以下に関連する。5. 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける6. 人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける7. 資源活用と建設プロセスを構想し、建築として表現する能力を身に付ける8. 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力	建築物の構成を理解し、建築に関する基礎知識を身に付ける。	0	0	0	0	0.2	0.2	0.4	0.2	0	0
建築構法	代表的な構造種別である木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造について概要を説明する。構造種別に応じて、使用材料と構法の成り立ち、構法特有の長所と短所、設計および建て方で留意する点などを解説する。構造力学との関連で荷重・外力と力の流れについても解説する。適宜、授業内容に応じた演習を行う。	自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	構造種別ごとに、主として構造と作り方(特徴、構造計画の考え方や基本的な方法)を学び、建築の設計に役立てる空間構成能力を養う。	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
鉄筋コンクリート構造	鉄筋コンクリート部材の構造計算に関する基本的な項目について習得し、鉄筋コンクリート造建築物の構造設計について学びます。	下記の建築学コース学習・教育目標に対応します。(5) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	・鉄筋コンクリート造建築物の構造的特徴を理解する。・部材の主筋の設計ができる。・部材のせん断補強筋の設計ができる。・鉄筋コンクリート造建築物の構造設計の流れを理解する。・鉄筋コンクリート造建築物の構造安全性を検討できる。	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
鉄骨構造	建築構造物の主要な構造形式である鉄骨構造による構造体を設計するための基本的な項目について習得し、鉄骨構造骨組の構造設計の内容について学びます。	下記の建築学コース学習・教育目標に対応します。(5) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	構造形式として鉄骨構造の特徴を理解する。引張力、圧縮力、曲げモーメントを受ける部材の設計ができる。接合部のディテールを理解して、接合部の設計ができる。鉄骨造建築物の構造設計の流れを理解する。	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
建築計画 I	建築計画は建築企画・構想を受け、建築設計の前段階として行われ、設計する建物に求められる機能・性能、運営組織と管理者・利用者の関係づけ、設計思想の歴史の変遷、今後予測される事項などを建物一般、および個々の建物種類ごとの特性をふまえて検討する過程です。その考え方や方法について解説します。	建築学コースの学習・教育目標との関係は、以下の2つと関係します。(4) 建築技術者としての倫理観を養う(6) 人間および社会の諸要求・条件を理解し建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける	本講義の達成目標は、建築設計の基礎となる建築計画の考え方や基本的な方法について、いくつかの建物種類を例に取りあげながら習得することにあります。	0	0	0	0.5	0.5	0	0	0	0	0
建築計画 II	建築計画の方法は空間のスケールにより異なってきます。空間スケールが大きくなるに従い、建築計画の対象は個々の人間生活から人間活動の集合としての地域コミュニティや都市に移ります。その一連の考え方や方法を歴史的な変遷を含め、具体的に解説します。	建築学コースの学習・教育目標との関係は、以下の2つと関係します。(4) 建築技術者としての倫理観を養う(6) 人間および社会の諸要求・条件を理解し建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける	本講義の達成目標は、集合住宅の住戸計画を始めとして、住棟、住宅団地、街区、都市など各スケールでの建築・都市計画の基本的な考え方や方法を習得することにあります。	0	0	0	0.5	0.5	0	0	0	0	0
環境工学 I	建築の室内外の環境に関する基礎講義	(6) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける	1. 室内環境を形成する物理的要素(室内外)の影響を理解するとともに、それらを定量的に求める計算方法と建築的な対策方法や技術を理解する	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
設備工学 I	建築設備は、建築室内環境を良好にし、人の活動を支援するためである。ただし、室内環境を良好にするには、建築設備以前に建築自体の性能をも高くする必要がある。設備工学 I では、建築と設備の環境調整性能について、電気設備、給排水設備、空調設備の使命、仕組み、主要な機器構成など設備全般の概要について講義する。	建築学コースの学習・教育目標のなかの以下の2つの目標と関係する。(4) 建築技術者としての倫理観を養う(6) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける	建築設備全般に関する基本知識を修得する。具体的な目標は以下である。・自然、周囲環境との調和、建築と建築設備の協調が重要であることを理解する。・建築設備に関連する人の生理・健康性・快適性及び環境の基本を理解する。・建築設備システムを構成する主要な機器の役割と機器間とのつながりを理解する。・身近にある建築設備とその機能に関心をもつ。	0	0	0	0.5	1	0.5	0	0	0	0
建築環境実験	本実験は、熱・光・音・空気などの自然の要素が建築内外においてどのような現象を示すかを定量的に測定する方法や分析・評価する方法を学び、自然現象と建築技術の調和を図るための基礎的知識を習得する。また自主的に自由に実験目的を設定して測定を行い考察する能力を身に付ける。	建築学コースの学習・教育目標との関係(5) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	・熱・光・音・空気質等の建築物に関わる基本的な環境要素の測定方法を習得する。・現象や実態に対する興味、疑問をもとに、解明のためのテーマを設定する力を養う。・設定したテーマに対し、適切な測定計画をたてる力を養う。・測定結果の特徴を分析する力、正しく比較評価する力を養う。・測定結果の効果的な表現力、考察の記述力、簡潔な結論の記述力を養う	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
建築材料 I	建築物を構成する種々の材料のうち、主要な構造材料であるコンクリートおよび鋼材の特性や性能等を学習する。	建築学コースの学習・教育目標のうち、以下の3つに関連する。(4) 建築技術者としての倫理観を養う。(5) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。(7) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築として表現する能力を身に付	建築材料の特性や性状変化のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	0	0	0	0.3	0.3	0	0.4	0	0	0

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号								
				達成目標(ディプロマポリシー)の項目との関連 を0.0, 0.1, 0.2, ... , 0.9, 1.0の数値で表す								
				A	B	C	D	E	F	G	H	I
建築材料実験	建築物を構成する種々の材料のうち、主要な構造材料であるコンクリート、鋼材、木材などの諸性質について各種の実験を行い、建築材料の特性や性能等を学習する。	建築学コースの学習・教育目標のうち、以下の2つに関連する。(4)建築技術者としての倫理観を養う。(5)自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	建築材料の特性や性状変化のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。また、日本工業規格(JIS)で規定されている各種材料の試験・評価、品質管理方法を学習し、建築技術者としての倫理観を養う。	0	0	0	0.5	0.5	0	0	0	0
建築生産	建築技術者として知っている必要があると考えられる、その施工に関する技術・知識について説明し、種々の実際の建設工事でのように行なわれているかをビデオ等で見せる。	・建築材料及び建築構法に関する理解を深め、建築分野へ適用出来る能力を身に付ける。 ・建築技術者としての考え方を養う。	1. 建物を作る方法を詳述し、建築工事についての学生の理解を深める。2. 上記により、設計、構造、土質、材料等各分野の学習の補完をする。3. 実社会に出て建築の様々な分野に進んだ時に、各分野と施工がどう関連するかを学習させる。	0	0	0	0.3	0	0.3	0.4	0	0
建設図学 I	図学は幾何学的な形態を平面に描写する方法の科学であり、空間図形の理解を容易にし空間の把握力を養う。	この科目は建設学科建築学コースの学習・教育目標(2)および建設工コースの学習・教育目標(A)の達成に寄与する。	本講義の目的は、立体を平面上へ投影する図法を修得させ、立体と空間の理解を深めることにある。	0	1	0	0	0	0	0	0	0
建築設計製図 I	設計製図の授業は与えられた課題に対して、定められた期限内に定められた内容の製図作品を仕上げることで、課題のねらいを理解し、与えられた紙面に要求された内容を的確に表現をすることが求められます。作業は製図室において行うことを原則とします	建築学コースの学習・教育目標との関係は、以下の2つと関係します。(1)科学技術に対する共通のリテラシーを身につける(2)多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身につける	本科目の達成目標は、建築設計の技術的基礎となる製図技法と表現方法ならびにスケール感覚を習得することにあります。	0.5	0.5	0	0	0	0	0	0	0
建築設計製図 II	建設中の鉄筋コンクリート(RC)造、鉄骨(S)造、または、鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)造の建物を例にとりあげ、その一般図、詳細図、構造図、および、設備図をトレースすることにより、建物を実際に造る際に必要となる主な図面の役割を伝える。同時に、製図技法、図面の表現方法	科学技術に対する共通のリテラシーを身につける	建築に関する図面のうち、主要な一般図、構造図、設備図について、それらの図面の果たす役割を伝え、実際に建設中の建物について、それらの図面を描いて理解する。	1	0	0	0	0	0	0	0	0
建築設計製図 III	設計製図の授業は与えられた課題に対して、定められた期限内に定められた内容の製図作品を仕上げることで、課題のねらいを理解し、与えられた紙面に要求された内容を的確に表現をすることが求められます。作業は製図室において行うことを原則とします。	建築学コースの学習・教育目標との関係は、以下の2つと関係します。(4)建築技術者としての倫理観を養う(8)歴史文化を尊重し、目標を立てて建築に関わるデザイン能力を身につける	本科目の達成目標は、建築設計のうち居住施設に関する設計の基礎的な製図技法と表現方法を具体的な課題を通して習得することにあります。	0	0	0	0.5	0	0	0	0.5	0
建築設計製図 IV	設計製図の授業は与えられた課題に対して、定められた期限内に定められた内容の製図作品を仕上げることで、課題のねらいを理解し、与えられた紙面に要求された内容を的確に表現をすることが求められます。作業は製図室において行うことを原則とします。	建築学コースの学習・教育目標との関係は、以下の2つと関係します。(4)建築技術者としての倫理観を養う(8)歴史文化を尊重し、目標を立てて建築に関わるデザイン能力を身につける	本科目の達成目標は、建築設計のうち業務施設および公共施設の基礎的な製図技法を習得するとともに、設計課題を通して設計技法を習得することにある。	0	0	0	0.5	0	0	0.5	0	0
建築設計製図 V	設計製図の授業は与えられた課題に対して、定められた期限内に定められた内容の製図作品を仕上げることで、課題のねらいを理解し、与えられた紙面に要求された内容を的確に表現をすることが求められます。作業は製図室において行うことを原則とします。	建築学コースの学習・教育目標との関係は、以下の2つと関係します。(4)建築技術者としての倫理観を養う(8)歴史文化を尊重し、目標を立てて建築に関わるデザイン能力を身につける	本科目の達成目標は、建築計画を通して、創造性を高めるとともに建築への基本的な取組方を習得することである。具体的には各種建築物の内容、規模を設定し図面表現を通して他に伝達する手法の習得と、創造性を豊かにするための課題のもとに、表現力を高める技法を習得する。	0	0	0	0.5	0	0	0	0.5	0
建築構造力学 III	この講義では、不静定構造物を対象として、実構造物の構造設計に役立つ「応力と変形の解析手法」と「構造設計の概要」を学びます。	下記の建築学コース学習教育目標に対応します。(5)自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	たわみ角法、固定モーメント法を用いて応力解析および変形の検算ができる。実構造物を対象とした構造設計の概要を理解し、保有水平耐力の検算ができる。	0	0	0	0	1	0	0	0	0
建築構造力学 IV	構造設計に役立つ弾性論、塑性論、座屈論などの基礎理論を学び、部材や骨組の弾塑性挙動に関する理解を深めます。	下記の建築学コース学習・教育目標に対応します。(5)自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。	・弾性論と塑性論の基礎を理解し、部材の弾塑性挙動を算定できること。・座屈論の基礎を理解し、単一圧縮材の曲げ座屈耐力の算定式を誘導できること。・仮想仕事の原理を理解し、板の塑性耐力を算定できること。	0	0	0	0	1	0	0	0	0
土質基礎工学	建物を設計・施工する上で必要な基本的な地盤・基礎に関する知識や考え方を。	この科目は建設学科建築学コースの学習・教育目標(6)、JABEE基準1の(c)の達成に寄与する。	基礎構造は、建物からの応力を地盤に伝達する重要な部分であり、建物の安全性に重要な役割を担っている。本講義では、建物を設計・施工する上で必要な地盤・基礎に関する基本的な知識や考え方の習得を目標とする。	0	0	0	0	1	0	0	0	0
構造設計論	実務設計における建築計画のアプローチ概論(Technical Approach in Design Development Phase)各種の基礎技術が如何に有効に設計行為の中で生かされていくかを具体的に示す。	建築学コースの学習・教育目標(7)に対応する。(7)資源活用と建設プロセスを構想し、建築として実現する能力を身につける。	建築設計は実と仮想の対比・対照の結晶であり、構造設計はその重要な要素であることと認識せしめる。また、各種の基礎技術が如何に有効に設計行為の中で生かされていくかを具体的に示し、基礎技術習得のモチベーションとともに学生個人の持つ創造的資質を刺激・発展させる。	0	0	0	0	0	0	1	0	0
建築計画学 III	建築設計の基礎となる各種公共建築物に関する専門的、技術的な事項について解説する。	建築学コースの学習・教育目標との関係:以下の1つの学習・教育目標と関係する。(6)人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける。	本講義の達成目標は、公共建築物の計画に関する専門技術の知識とそれらを設計デザインに応用できる能力を養うことである。	0	0	0	0	0	1	0	0	0
建築計画学 IV	建築設計の基礎となる各種公共建築物に関する専門的、技術的な事項について解説する。	建築学コースの学習・教育目標との関係は、以下の1つと関係します。(6)人間および社会の諸要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける。	本講義の達成目標は、公共建築物および業務施設の計画に関する専門技術の知識とそれらを設計デザインに応用できる能力を養うことである。	0	0	0	0	0	1	0	0	0
都市計画	都市計画は、土木、建築、造園等の技術を都市のスケールで展開する分野であり、我々の生活を支えるルールの一つともいえます。身近な日常生活の問題がどのように扱われているかを考えよう。一方で、時代の大きな変化のなかで、新しい都市計画のシステムが構築されています。次の世代を担う若者たちのライフスタイルにあった都市環境はどうあるべきか学びましょう。	建設工学コースの学習・教育目標 E、建築学コースの学習・教育目標;(6)	都市計画の特徴は、基本的な用語の概念を正確に理解することから始まります。教科書の構成とキーワードを丁寧に学習してください。それを用いて、都市を語るようになることが目標です。	0	0	0	0	0	1	0	0	0
地区計画	前半は三橋教員が、また後半は長田教員が行う。日常生活の身近な範囲である地区を主な対象として、まちづくりとコミュニティの概念の基礎的な理解をもとに、住民参加を推進するコミュニティ計画、地区計画のあり方を解説する。さらに、市街地の具体的な事例を通して計画の進め方と事業制度の根拠を学ぶ。	建築学コースの教育目標との対応:(6)建設工学コースの教育目標との対応:E	1. 法定地区計画および自治体まちづくり条例にもとづく地区計画など、地区レベルの計画に必要な基礎的な概念と手法として下記を修得する。1)まちづくりの概念と地区計画との係わり2)まちづくり条例とまちづくり規範3)コミュニティと住民参加2. 具体的な事例を通して、地区計画の内容と整備手法を理解する。	0	0	0	0	0	1	0	0	0



授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号									
				達成目標(ディプロマポリシー)の項目との関連 を0.0, 0.1, 0.2,・・・,0.9, 1.0の数値で表す									
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	
建築法規	1. 建築法規の基本である建築基準法の沿革を学び建築基準法を体系的に理解する。2. 建物を建築するには、建築基準法だけではなく多くの法令が関わって来る。建築に関する主な法令のあらましについて学ぶ。3. 建築法規は法律特有の表現から来る難解さがあるので、法規を理解するための基礎知識として、法令の種類、形式について学ぶ。4. 建築基準法を良く理解するため、建築基準法の構成について学ぶ。5. 建築士の資格、設計事務所の業務を定めている建築士法について学ぶ。6. 行政事例を押さえ、建築物の安心、安全について理解を深める。	建築学コースの学習・教育目標との関係:以下の2つの学習・教育目標と関係する。(4) 建築技術者としての倫理観を養う(6) 人間および社会の諸要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける	建築物の最低の基準を定めた「建築基準法」の理解を深めることは、建築に携わる技術者にとって極めて大切なことである。本授業の目標は「建築基準法」と建築に関する他の法令等の基本的な知識を習得し、今後の具体的な建築物の設計、施工の際に、その知識を生かすことにある。		0	0	0	0.5	0	0.5	0	0	0
建築法規	1. 建築法規の基本である建築基準法の沿革を学び建築基準法を体系的に理解する。2. 建物を建築するには、建築基準法だけではなく多くの法令が関わって来る。建築に関する主な法令のあらましについて学ぶ。3. 建築法規は法律特有の表現から来る難解さがあるので、法規を理解するための基礎知識として、法令の種類、形式について学ぶ。4. 建築基準法を良く理解するため、建築基準法の構成について学ぶ。5. 建築士の資格、設計事務所の業務を定めている建築士法について学ぶ。6. 行政事例を押さえ、建築物の安心、安全について理解を深める。	建築学コースの学習・教育目標との関係:以下の2つの学習・教育目標と関係する。(4) 建築技術者としての倫理観を養う(6) 人間および社会の諸要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける	建築物の最低の基準を定めた「建築基準法」の理解を深めることは、建築に携わる技術者にとって極めて大切なことである。本授業の目標は「建築基準法」と建築に関する他の法令等の基本的な知識を習得し、今後の具体的な建築物の設計、施工の際に、その知識を生かすことにある。		0	0	0	0.5	0	0.5	0	0	0
建設図学Ⅱ	図学は幾何学的な形態を平面に描写する方法の科学であり、空間図形の理解を容易にし空間の把握力を養う。建設図学からの継続である。	この科目は、建設学科建築学コースの以下の学習・教育目標に關係する2. 多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身に付ける5. 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身につける6. 人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける9. 工学と芸術の	本講義の目的は、立体を平面上へ投影する図法を修得させ、立体と空間の理解を深めることにある。授業後半では、建築物や土木構築物の立体表現に用いる図法(陰影、軸測投影、透視図等)を扱い、建築製図の基礎的技術を修得する。		0	0.3	0	0	0.2	0	0.3	0	0.2
建築デザイン	建築の構成に関して、室、架構、動線、ボリューム、外部空間等による部分と全体の原理を解説し、建築デザインの統合方法についての分析力と構想力を修得する。		建築デザインのとまめ方に関するリテラシーを獲得する。		0	0	0	0	0	0	0	1	0
歴史意匠Ⅰ	歴史意匠は建築史学の意匠(デザイン)を含む学問で、過去の歴史において、どのような建物が建てられ、どのような意味で歴史に残っているのか、またその意匠はどのような歴史的背景と技術的変遷を経て建てられたものかについて学ぶものである。歴史意匠Ⅰは、現代の設計行為やデザインをする際に、基本的な概念と現代の問題解決に必要なヒントを与えようとするもので、この授業は古代からルネッサンス、バロック期までの「西洋建築」の形成、及び発展の過程を理解し、歴史的背景を含む各時代の様式、意匠の特徴を修得することが目標としている。	建築学コースの学習・教育目標との関係:以下の1つの学習・教育目標と関係する。(8)歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける	本講義は古代ギリシャ建築を西洋の源とし、さらに西洋建築史をエジプト、メソポタミアの古代文化建築から出発しているという伝統に従い、古代西アジアを含めた西洋建築の様式、造形、構造、技術、意匠等の発展の様子と特徴を修得することが目標である。		0	0	0	0	0	0	0	1	0
歴史意匠Ⅱ	歴史意匠Ⅱは、近代建築史の思潮の変遷及び近代建築家作品を対象としている。この特徴は、近代においてより良い建築作品が歴史の中で残され、その時代を語る記録とされているため、現代における建築設計の思想の原点を知る上で多くの示唆を与えており、そのため設計の発想となる契機として利用されることがある。歴史意匠Ⅱの講義は現在の立場において創造的な行動に一つの手がかりを与えることを目的としており、単に過ぎ去った過去の時代の建築を解き明かすことが目的ではない。また結末が示されていない時代の建築と同じ目で、より創造的であろうとする立場から、近代建築の思想の流	建築学コースの学習・教育目標との関係:以下の1つの学習・教育目標と関係する。(8)歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける	本講義は19世紀近代建築思潮から現・近代建築まで、建築作品及び建築思潮を通して設計概念と建築思想の変遷過程を理解することが目標である。		0	0	0	0	0	0	0	1	0
歴史意匠Ⅲ	本講義は、古代から近世に至る日本建築の形成および発展過程を捉え、日本建築の特徴あるいは日本的な意匠とはどのようなものかについて解説する。歴史意匠は建築史学の意匠(デザイン)を含む学問で、過去の歴史において、どのような建物が建てられ、どのような意味で歴史に残っているのか、またその意匠はどのような歴史的背景と技術的変遷を経て建てられたものかについて学ぶもので、現代の設計行為やデザインをする際に、基本的な概念と現代の問題解決に必要なヒントを与えようとするものである。	建築学コースの学習・教育目標との関係:以下の1つの学習・教育目標と関係する。(8)歴史意匠を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける	古代から近世に至る日本建築の形成および発展過程を捉え、日本建築の特徴あるいは日本的な意匠とはどのようなものかを理解する。		0	0	0	0	0	0	0	1	0
環境工学Ⅱ	建築環境および都市環境に関する講義を行なう。パッシブデザインを行うための計算方法とライフサイクル評価について取り扱う。建築スケールおよび都市スケールの両面についての検討方法について解説を行なう。	(5)自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に生かす能力を身につける。	1. 建築内外の環境を構成する物理的要素を理解し、優れた環境を創造するための技術を学ぶ。2. 建物が外部環境に及ぼす影響と環境負荷削減方法について学ぶ。		0	0	0	0	1	0	0	0	0
設備工学Ⅱ	設備工学Ⅱでは、空調設備について、冷暖房の原理を説明した上で、エネルギー有効利用として、自然エネルギー利用、排熱回収、ロス回避などがあること、具体的なエネルギー有効利用の手法とその考え方を説明する。	建築学コースの学習・教育目標のなかの、以下の目標と関係する。(6)人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける	個別式空調方式と中央式空調方式熱源システムを学ぶ。具体的な目標は以下である。・ルームクーラの原理、ヒートポンプの原理を理解する。・圧縮式冷凍機と吸収式冷凍機の原理と特徴の違いを理解する。・ヒートポンプや吸収式冷凍機を利用したエネルギー有効利用の考え方を理解する。							1	0	0	0
設備工学Ⅲ	設備工学Ⅲでは、空調設備のうち、主に室内環境を良好に保つためのシステムを講義する。用途に応じた空調方式、空調ゾーニングや空調装置設計法、環境建築設計のための各種手法と設計事例について講義する。	建築学コースの学習・教育目標のなかの、以下の目標と関係する。(6)人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける	・空調機での空気加熱冷却・加湿除湿の原理と特徴を理解し熱量計算ができる。・主要な室内空調方式の特徴、空調ゾーニングと空調方式の選定法を理解する。・省エネルギー技術の特徴を理解し、建築と設備の性能向上の重要性を認識する。・設計製図Ⅴ(事務所)の空調システムのコンセプト提案のための基礎力をつける。		0	0	0	0	0	1	0	0	0
設備設計論	建築と設備の境界領域、最新の環境技術・社会動向、実物件への導入事例を中心に、建築における設備設計の役割と重要性、設備設計の基礎知識について授業を行います。	建築学コースの学習・教育目標との関係(6)人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける。(9)工学と芸術のバランスのとれた感性を磨	実務者からの視点で建築設備の現状と設計への対処例を紹介することで、建築業界への理解を深めるとともに建築設備設計の基礎的知識を習得する。		0	0	0	0	0	1	0	0	0
建築材料Ⅱ	建築物は多くの種類の材料・部品から構成されており、建築物の所定の性能や機能を実現するためには、適切な種類・品質の材料・部品を選択し、適切に使用することが重要である。この授業では、木材・木質材料、各種仕上材料および機能性材料の特性、性能、製造法等を学習する	建築学コースの学習・教育目標のうち、以下に關連する。(7)資源活用と建設プロセスを構想し、建築として実現する能力を身に付ける。	建築材料の特性や性状変化のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。		0	0	0	0	0	0	1	0	0

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連										
				ディプロマポリシーの項目記号										
				達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す										
A	B	C	D	E	F	G	H	I						
測量学	測量は文明の発祥とともに誕生し、陸地の発達とともに開花し、数学、特に幾何学や三角法の母胎となった技術である。また、測量学は、建築・建設分野での基礎学問であり、これがないとすべての事業が進まない大変重要なものである。講義では、測量の定義に始まり、様々な測量方法および誤差の補正方法・統計処理など、測量士補として必要な内容について講義する。また、最近の測量に使用されているGPS測量やTS測量をも取り入れて講義する。	建設学科建築学コースの教育目標「1. 科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける」に資する(建築学コースの教育目標について、履修案内(工学部)等を参照のこと)	1. 測量の定義を理解していること。2. 各種測量方法を理解していること。3. 統計に基づいた誤差処理方法について理解していること。		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
建築見学実習	古建築や伝統的町並みの見学、あるいは最新の技術を駆使した建築の見学を通して、今後の建築のあり方を考察することに役立つ建築文化や建築技術について学びます。	歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身につける。	国内または国外の建築物を実際に見学し、建築に対する理解を深める		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
建築情報デザイン	情報化、ネットワーク化が急速に進んでおり、ますます実社会において、コンピューターを用いた活動が求められている。特に工学系ではコンピューターの活用により、各人の能力を飛躍的に増大させることの可能性が高まる。本講義では、建築分野において必要とされるコンピューターの活用方法について各種のケーススタ	建築学コースの学習・教育目標との関連(1) 科学技術に対する共通のリテラシーを身につける	・コンピューターと情報処理についての基礎知識を修得する・建築分野に適したコンピューターの活用方法を修得する		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学外実習 I	本科目は全学年を対象としており、実習の担当教員は、学年担任および研究指導教員である。また、開講時期も各担当教員との相談で適宜対応できる。	多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身につける。	建築学は実社会との結び付きが極めて強く、学内における講義、演習、実験だけではなく実社会での体験、知識の習得が重要である。本科目では、学外における実社会での体験を通して建築学の社会に果たす役割の一端を把握すること、建築学を学ぶ目的の再確認、そして学生本人の将来の進路を検討するための一つ機会とし		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
学外実習 II	本科目は全学年を対象としており、実習の担当教員は、学年担任および研究指導教員である。また、開講時期も各担当教員との相談で適宜対応できる。	多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身につける。	建築学は実社会との結び付きが極めて強く、学内における講義、演習、実験だけではなく実社会での体験、知識の習得が重要である。本科目では、学外における実社会での体験を通して建築学の社会に果たす役割の一端を把握すること、建築学を学ぶ目的の再確認、そして学生本人の将来の進路を検討するための一つ機会とし		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
建築学卒業研究	卒業研究は、配属される各研究室において、指導教員による指導の下、選択したテーマにもとづき、実験、実測、現地調査などを通じて得た資料・データを整理、分析して、論文としてとりまとめ発表審査を受ける一連の作業である。	下記の建築学コースの学習教育目標と対応します。6. 人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける7. 資源活用と建設プロセスを構想し、建築として実現する能力を身に付ける9. 工学と芸術のバランスのとれた	卒業研究の達成目標は、主に専門科目において習得した知識や技術を集大成すべく、それらを活用して各自が取り組む研究テーマについて課題解決を図る能力を身につけること。		0	0	0	0	0	0.4	0.4	0	0.2	
建築学卒業設計	卒業設計は、学部授業で修得した建築に関する知識・技術にもとづき、自ら設計テーマや敷地、建物用途などを自由に設定し、与えられた枚数の建築図面として表現して発表審査を受ける一連の作業である。	6. 人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける8. 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける9. 工学と芸術のバランスのとれた	・歴史文化を継承し、地域社会に貢献する建築の意識を持つ。・都市や地域が育んできた歴史や空間の中で建築設計を行う能力を磨く。・施設建築の建築条件を理解し、設計を行う能力。・建築学に関する包括的な専門知識と構造、計画、環境設備、材料・構法などの専門知識の活用。		0	0	0	0	0	0.3	0	0.3	0.4	